

「～抜髄する前に知っていて欲しい～保存修復から考える歯髄保護」



宮地 秀彦（みやじ ひでひこ）

昭和 51 年（1976 年）生まれ、京都府出身

平成 13 年（2001 年）大阪歯科大学卒業（49 期）、歯科医師免許取得

平成 18 年（2006 年）大阪歯科大学大学院修了（歯科保存学専攻）

平成 19 年（2007 年）坂根歯科診療所（京都府）勤務

平成 24 年（2012 年）大阪歯科大学歯科保存学講座 助教

平成 28 年（2016 年）宮地歯科医院（京都府長岡京市）勤務（※父が院長です）

う蝕に対する保存修復治療は、G.V.Black によって 100 年以上前に確立されたこともあり、現代においてはコンベンショナル、いわゆる“Drill and Fill”な分野と見なされがちです。しかしながら、う蝕進行機序の解明やレジン系歯質接着システムの信頼性向上などを背景とした Minimal Intervention (MI) コンセプトと共に、直接コンポジットレジン修復として普及しました。その一方で間接法修復においても、歯科用 CAD/CAM システムをはじめとするデジタルデンティストリーが、その急速な発展にともなって、広く臨床に応用されつつあります。

しかしながら、いずれの術式・器材も正しく選択・適用するためには、それらに関する知識と深い理解が必要であり、それ無くしてコストや時間ばかりを重視した治療が多く行われてしまえば、結果として歯科医療従事者と患者の双方において、不幸な関係性だけが残ってしまいます。

今回は、私自身の臨床におけるう蝕除去や象牙質コーティングなど、保存修復学的見地より心がけている幾つかのポイントを紹介させていただきたいと考えております。皆様のご参考になれば幸いです。

大阪歯科大学歯科保存学講座 非常勤講師

京都歯科医療技術専門学校 講師

奈良歯科衛生士専門学校 講師

行岡医学技術専門学校 講師

株式会社モリタ主催 モリタプラクティスコース 講師

所属学会

日本歯科保存学会

日本接着歯学会

日本歯科審美学会

